

## 南三陸町立名足小学校

2014年 12月 19日

大西 歩美(香川大学大学院教育学研究科)  
北林 雅洋(香川大学教育学部)

### 【文献】

(1) 「被災の小学校、元の校舎で授業再開」日テレNEWS24より 2013年11月8日 <http://www.news24.jp/articles/2013/11/08/07239934.html>

### 【場所】

海から約160mの位置にある。  
住所:宮城県本吉郡南三陸町歌津中山14

### 【東日本大震災による被害】

津波により校舎2階まで浸水。



赤い範囲:南三陸町 赤い範囲:南三陸町歌津 緑の範囲:名足小学校

### 【震災当日の様子】

震災当時、学区にいた児童と教師は学校近くの高台に避難して無事であった。学校の校舎は、津波により2階まで浸水した。

震災後、町内の別の小学校に間借りして授業を続けてきたが、現在は元の校舎を修繕して再開している。修繕の際に津波対策として、震災前は1階にあった1・2年生の教室を2階に移した他、近くの高台にスムーズに避難できる通路を校舎2階に新たに整備した。(1)



南から見た学校と裏山(2014/3/18撮影)

### 【調査して言えること】

学校の標高は約12mあるが、海から160mほどしか離れておらず、地震の際は津波を警戒した避難の必要な学校である。また、学校からは海がよく見える。

学校の裏側は山になっており、校舎と山の間に体育館がある。この体育館は校舎よりも標高が高く約17mで、修繕後の校舎は2階から直接この体育館の高さの敷地に繋がる通路が設けられている。学校裏の山は道路が整備されており、学校から道路を道なりに300mほど行くと標高30m以上の安全な場所に行くことができる。また、学校の敷地内にもちょっとした高台があり、階段が設けられていて、標高は20mほどある。しかし、もし津波で周囲が浸水した場合に次に移動できる場所がなく、津波の避難場所としては少し危険がある。

学校の近くに道路の整備された避難できる山があり、学校外への避難がしやすい学校である。



学校(北から見た海(2014/3/18撮影)



校舎2階と体育館のある敷地を結ぶ通路(2014/3/18撮影)